

三体千字文を書く(21)

締切り 九月二十五日(必着)

始 始 始
制 制 制
文 文 文
字 字 字
氏 名

奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

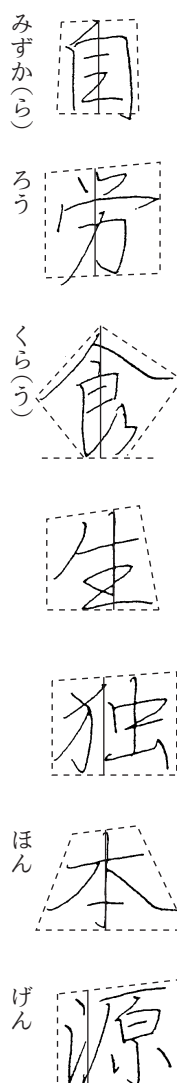
始制文字
乃服衣裳

黄帝のとき始めて蒼頡によって文字が制定された。身分に応じた衣服の制を定めて着るようになった。

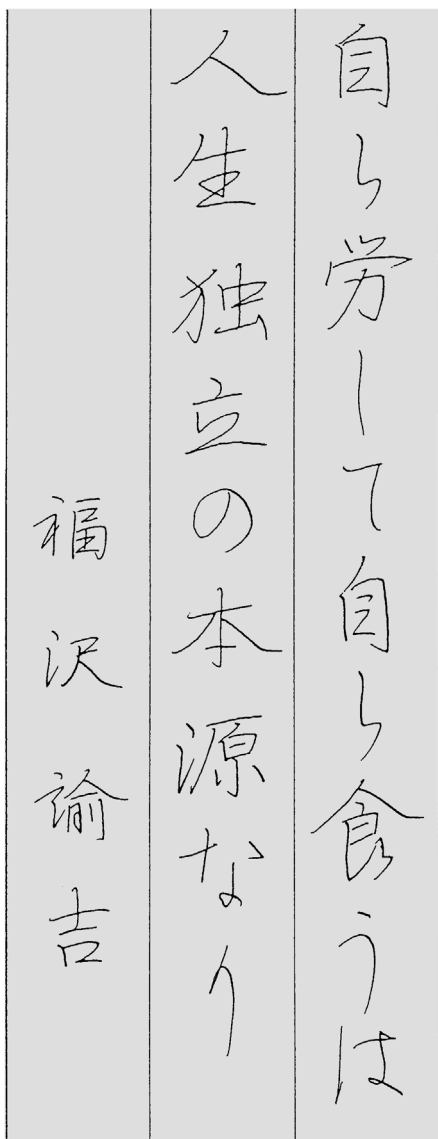
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。
◎行書の運ペン法は、ペンをやわらかく、淀みなく運ぶのが特長である。これに腐心すると、ややもすれば骨力を失い、軟弱な書に陥りやすい。生気ある行書は運ペン速度、緩急の度を学ぶことが大切です。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★障子を：（書体＝楷書）

豊田佐吉（一八六七～一九〇〇）

自動織機を発明

「トヨタ自動車」の基礎を築く

せまい自分の世界に満足しないで、外の広い世界に出てみましょう。そこには多種多様な人々が共に生き、様々な情報が行き交い、社会全体が大きく動いています。そこから多くのものを吸収し、大きく成長するのです。

◆10月課題予告（行書）

疑うが故に知り
知るが故に疑う

寺田寅彦

★自ら：（書体＝行書）

福沢諭吉（一八四一～一九〇二）

明治期の教育家、啓蒙思想家

自分で働いて、その代償として報酬をもらい、それで食べて暮らしていく、これが自分の力で人生を生きていくことの基本なのです。

働きたいのに仕事がない、働けるのに働かない……これは本人にとって、また社会にとって大変不幸なことです。

◆10月課題予告（楷書）

直言を容納し

己を虚しくして

物を待す

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

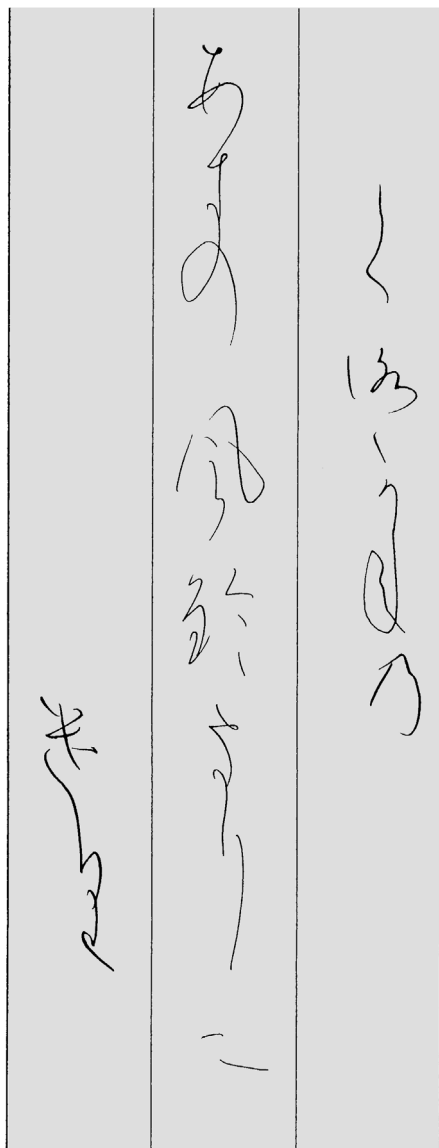
一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

くろがねの秋の風鈴鳴りにけり

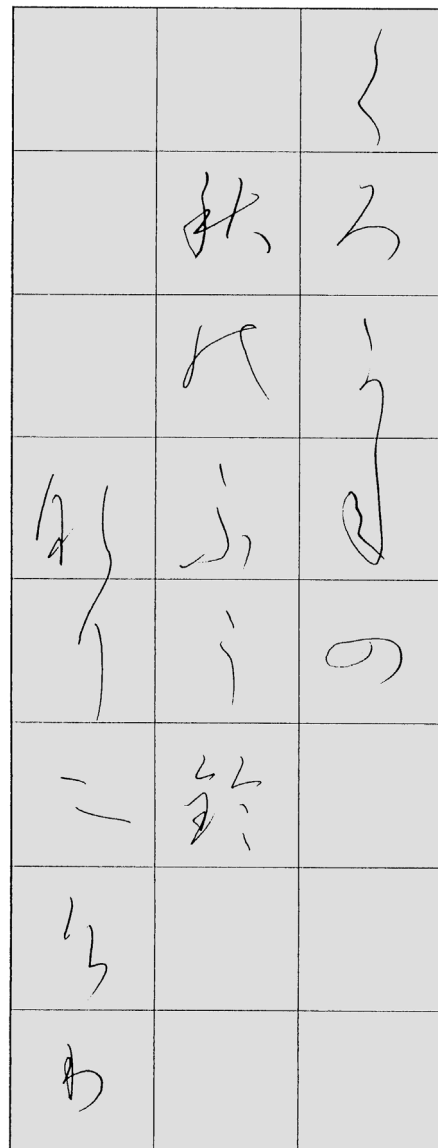


おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

くろがねの秋の風鈴鳴りにけり



おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆10月課題予告

をりとりてはらりとおもき

すすきかな

(飯田蛇笏)

里り 利り 遣け 能の 年ね 路ろ

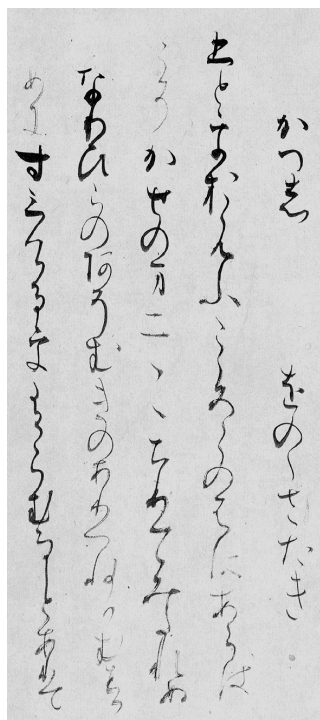
〔古筆参考〕

くろがねの秋の風鈴鳴りにけり

(飯田蛇笏)

〔古筆参考〕

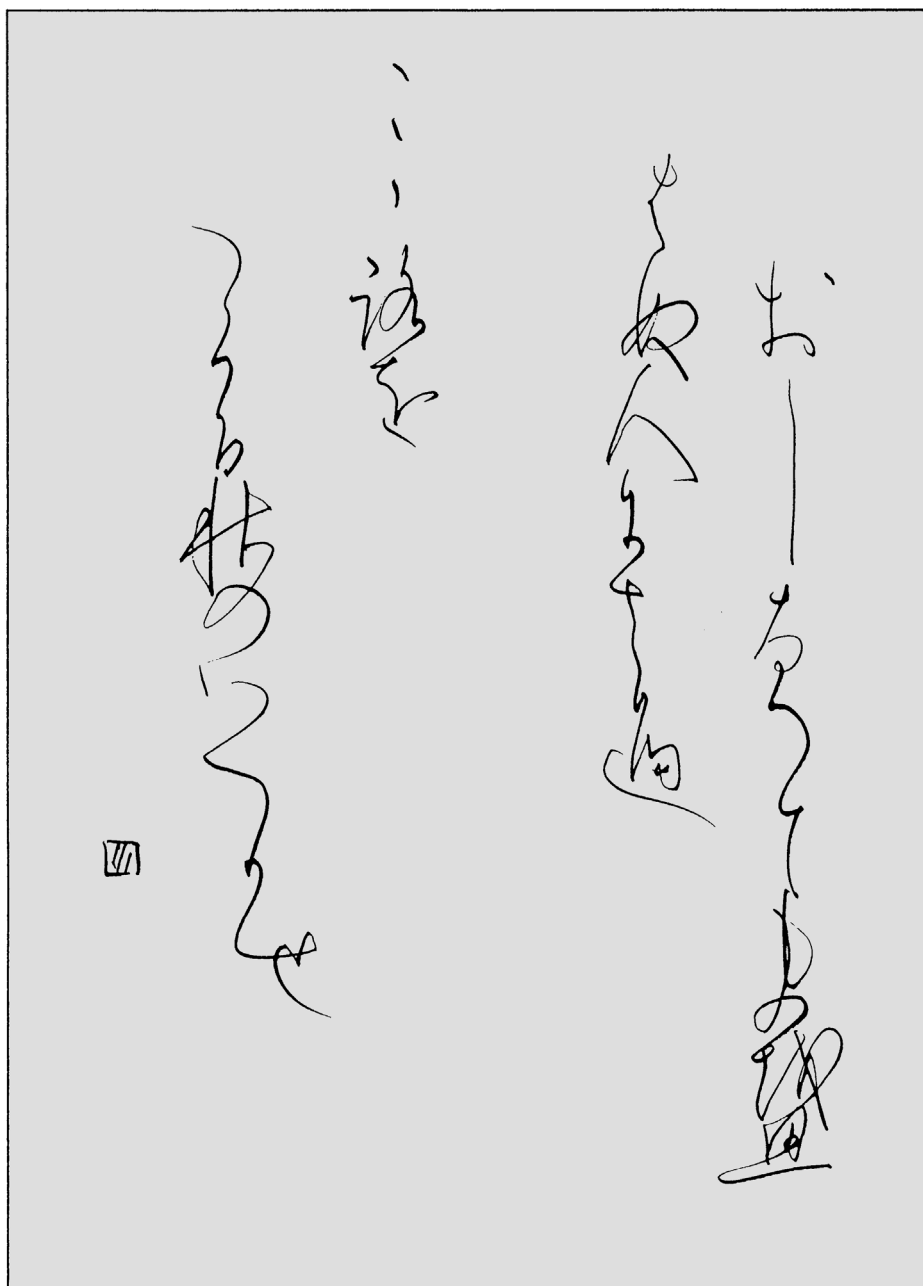
せき ど ほん こ きんしゅう
関戸本古今集



かつき きのせうたふ
かへし きのさだき
ひとをおもふころこのはにあらば
こそかぜのまにちりてみだれめ
なりひらのあそむきのありつねがむす
めにすみけるを、うらむることありて

締切り 九月二十五日(必着)

築瀬舟香書



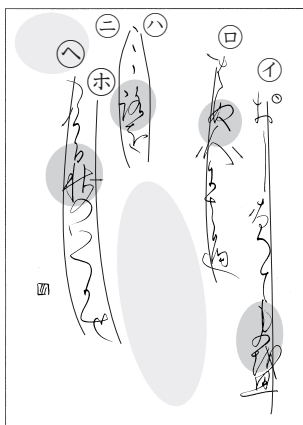
〔解説〕

(新潮日本古典集成)

〔出典〕新古今和歌集

〔歌意〕総じて、物を思い悩まぬ人に
さえ、もののあわれの心を起こさせる
秋の初風よ。

おしなべてものを思はぬ人にさへ
心をつくる秋のはつかぜ
西行法師



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、
それぞれ呼応。②と③背勢。
- 密の部分。
- 余白(大きな間)。
- 指向性。線の方角大切。
- 点の位置大切。

集団性

かなは同じような行の配列では、間
のびしてしまうのです。そこで七月号
八月号で述べた強調・疎密が集団にな
る事で面に力が生じるのです。

◆10月課題予告

み吉野の山の秋風さ夜ふけて
ふるさとさむく衣打つなり

締切り 9月25日(必着)

最近ちょっとした段差で躓く事が
多くなったので、足腰の鍛練にと
主人の犬の散歩に付き合うようにな
りました。緩急をつけた運動が
体にいいですし、犬好きの方との
出会いも多く、楽しい毎日です。

◎手本は水性ボールペン使用

最近ちょっとした段差で躓く事が
多くなったので、足腰の鍛練にと
主人の犬の散歩に付き合うように
なりました。緩急をつけた運動が
体にいいです。犬好きの方との
出会いも多く、楽しい毎日です。

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

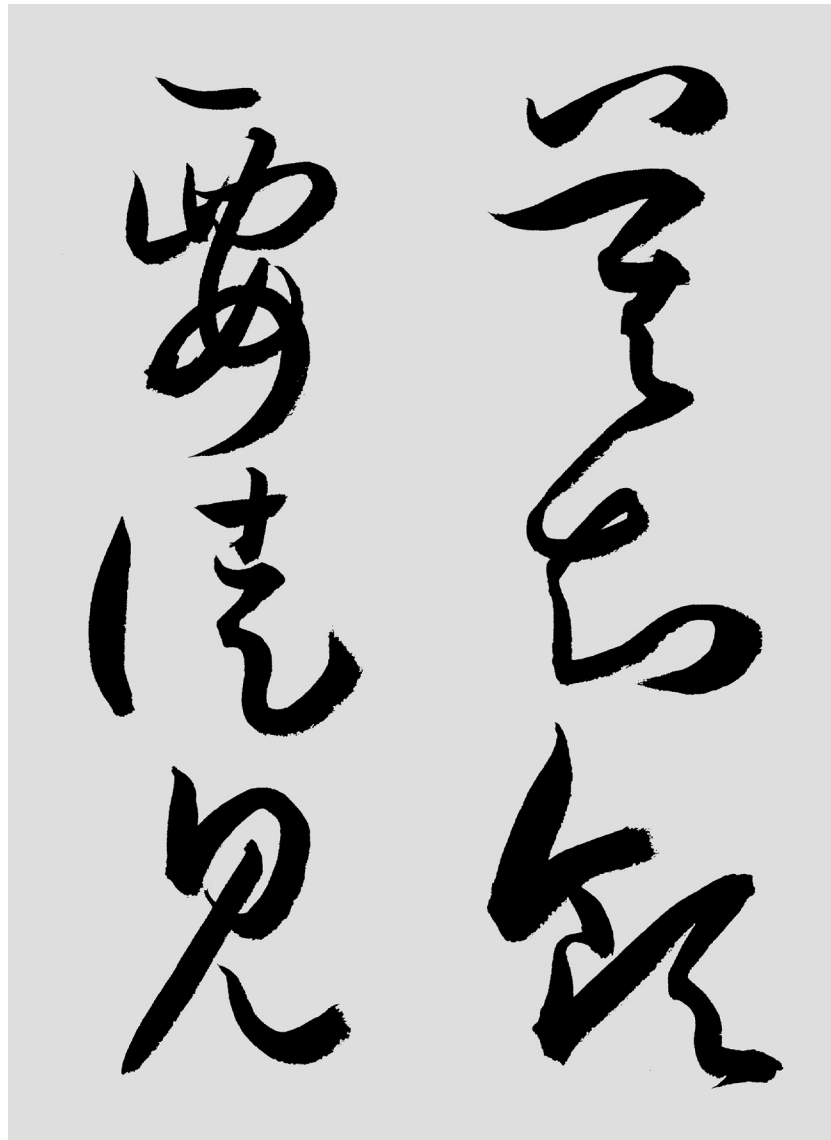
コスモスは「飾り・美しい」の意で、
マドリードの植物園長が命名した。
京都府亀岡市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 9月25日（必着）

莫
知
領
要
徒
見

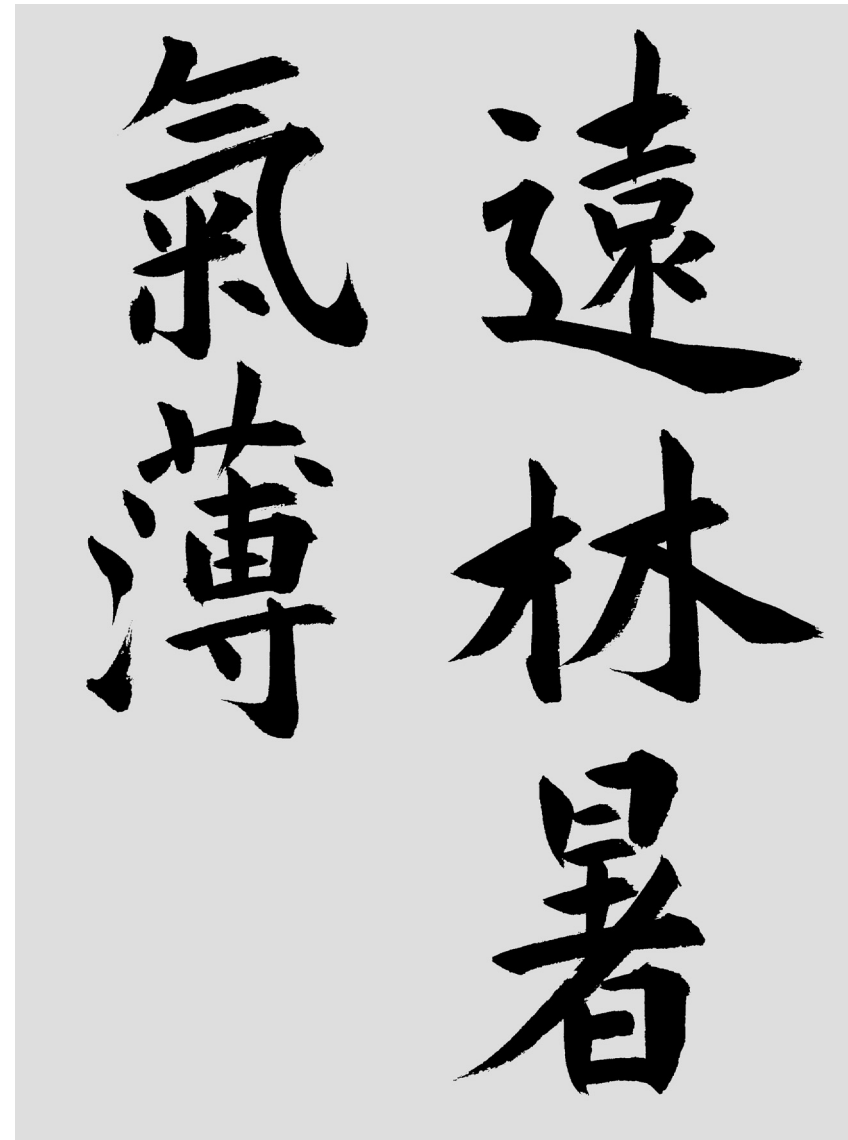


〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（649?～688?）

〔読み〕^{りょうよう}領^な要^{いたず}を知る莫く、徒らに（成功の美を）見る

準初段から師範まで

奥^{おく}
村^{むら}
暢^{のぶ}
之^{ゆき}
臨



〔読み〕^{えんりんしょき うす}遠林暑氣薄し

〔大意〕遠くつらなる林には暑さも薄らいでいる。

新入から1級まで（楷書）

荻^{おぎ}
田^た
蒼^{そう}
仙^{せん}
書

締切り 9月25日 (必着)

浅井機山先生書

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

草山に馬放ちけり秋の空

〔出典〕 なつめ そうせき
夏目漱石

【句意】「阿蘇戸下温泉」の前書がある。天高く晴れた阿蘇外輪山の放牧の景観である。

$$\begin{array}{c} | \\ \infty \\ | \end{array}$$

そら八弓つ支春三本とほ能
空晴れて月すみのぼる遠山の
ふもと起与者乃しら
麓よこぎる夜半の白雲

〔出典〕 まさなり 雅成親王

〔歌意〕空は晴れて、月が澄んでのぼる遠山の、その麓を横切って流れてゆく夜中の白雲よ。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 九月二十五日(必着)

半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書

萬頃白波迷白鷺
林黄葉送秋蟬

萬頃白波迷白鷺
一林黄葉送秋蟬
〔大意〕果てしなく広がる川面の白波は、降りたって宿ろうとする白鷺を迷わせ、林の木々は総て黄ばんで秋蟬を見送る。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

御地名産の見事な水蜜桃を惠贈

下さり有難うございました口に

廣がり甘くて酸っぱい秋の味覚に

思わず舌鼓の合奏と相成りました

根本智子

書 華 玲 田 樋

半紙(334mm×240mm)

〔条幅解説〕

「手本をよく見て書く」、もっともな事ですが反面模倣のみに執着しないで、手本から形のとり方の要素、筆づかいやリズムを学ぶことも大切です。美しいと感じるその要素は何か、その原理を掴んで自分の作品に取り入れて欲しいのです。手本によく似ていても作品に魅力のない、或いは似ていなくても、良い作品があります。形だけ真似て書くのは初歩段階なのです。

御地名産の見事な水蜜桃を惠贈
下さり有難うございました口に
広がる甘くて酸っぱい秋の味覚に
思わず舌鼓の合奏と相成りました

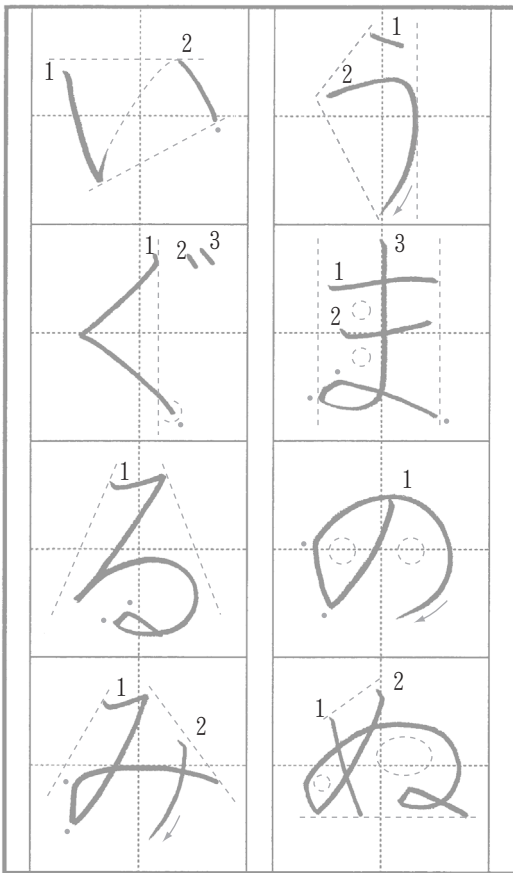
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

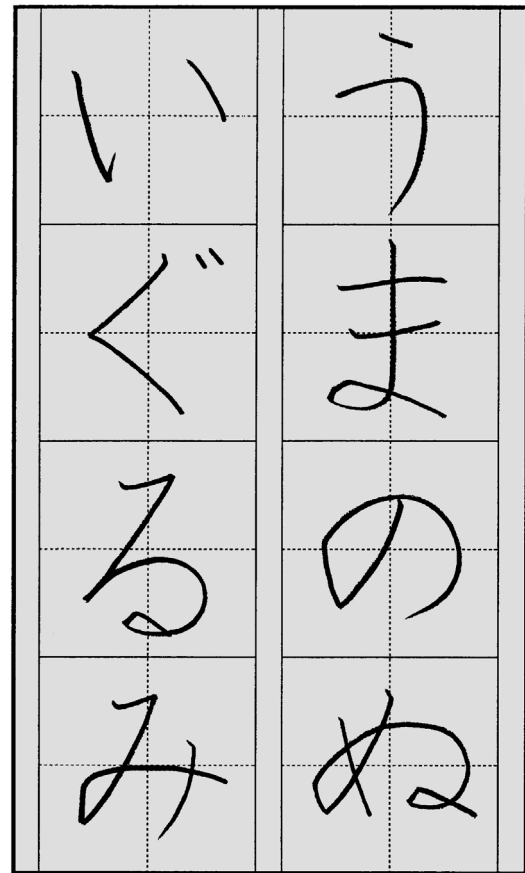
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



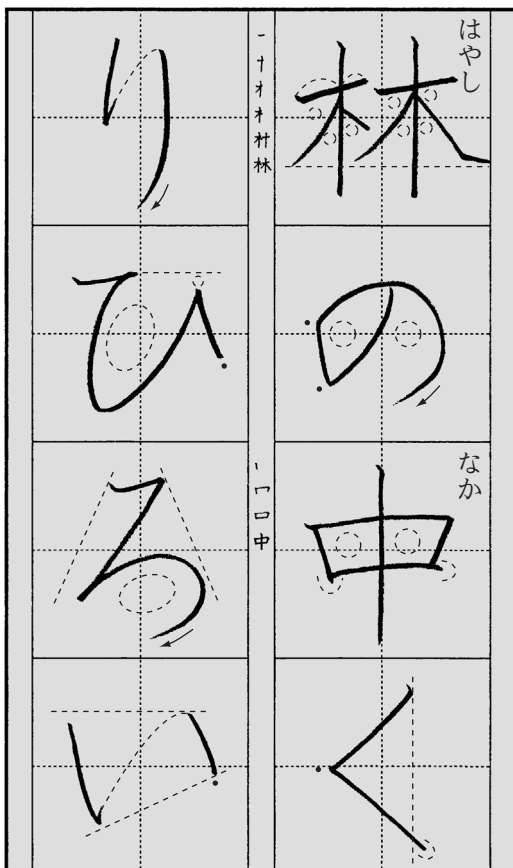
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



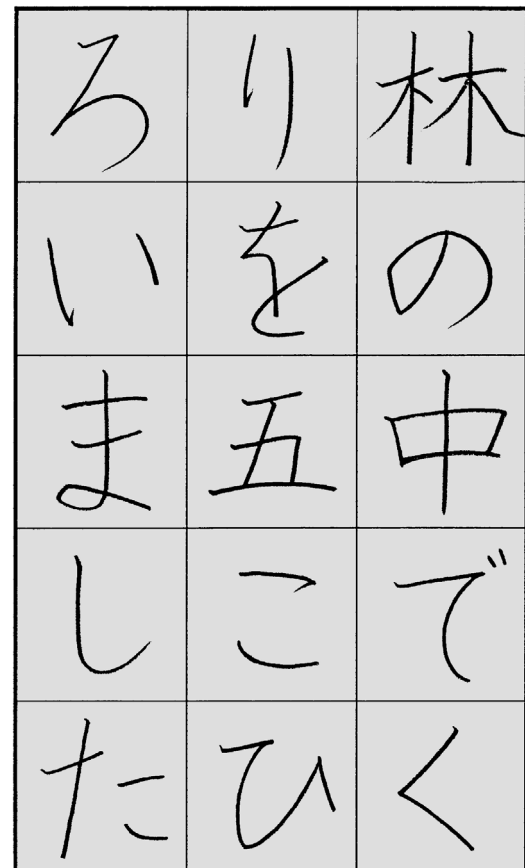
よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

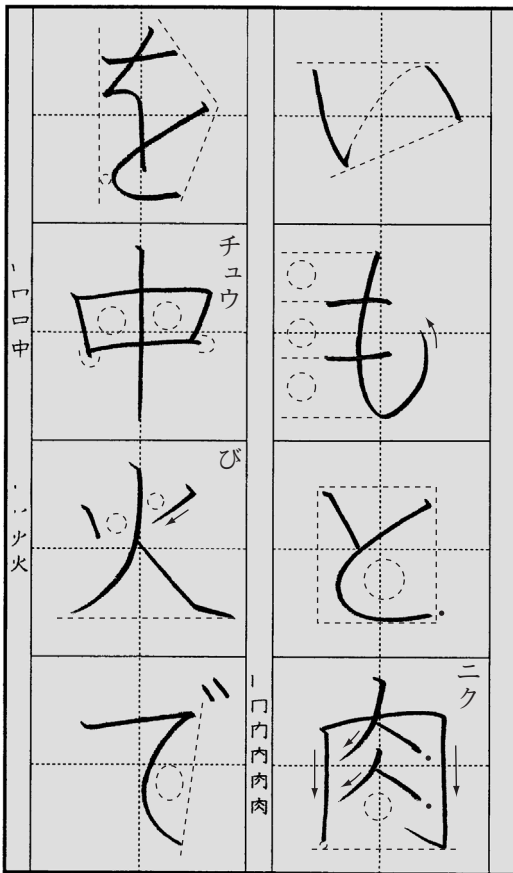
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

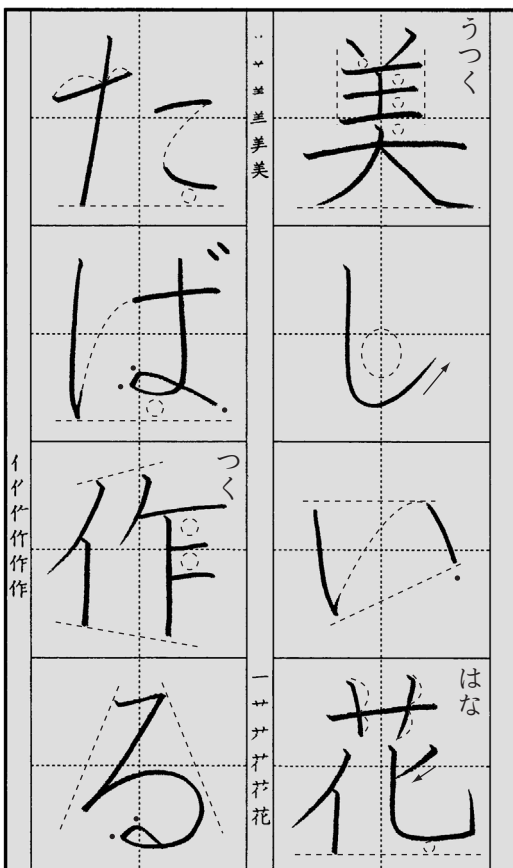


新入1級



小二年

準初段以上



新入1級

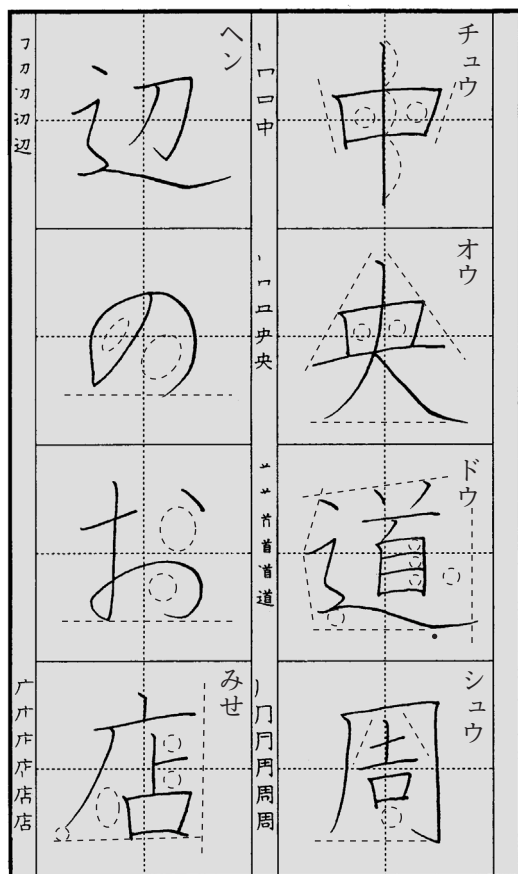


小三年

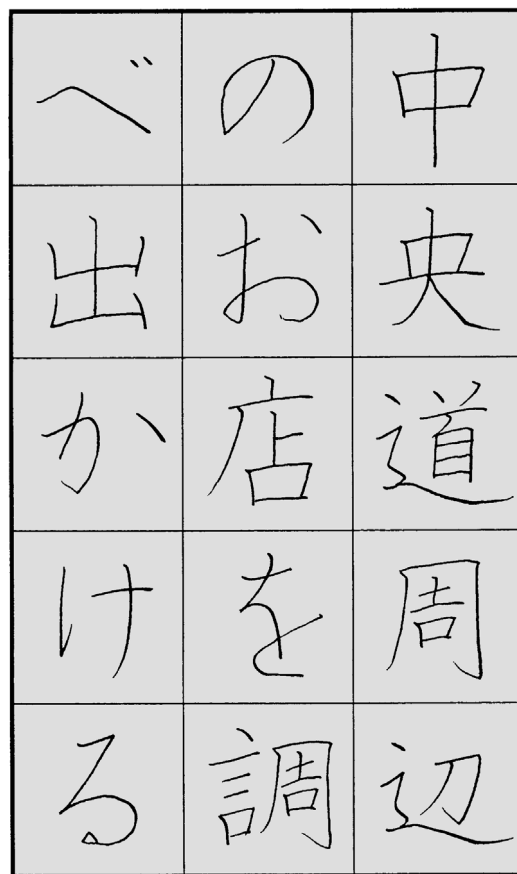
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



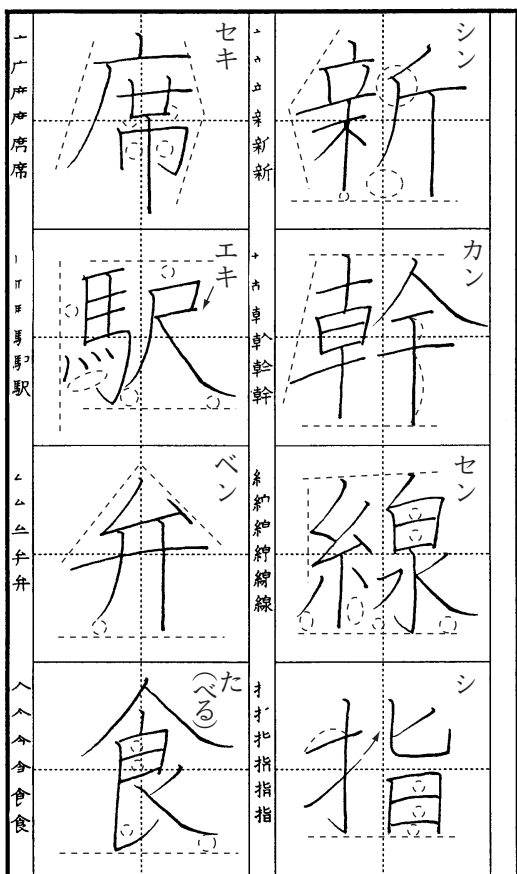
新入1級



小四年

準初段以上

小四以上 須田一葉書



解説(よく見て習いましょう)

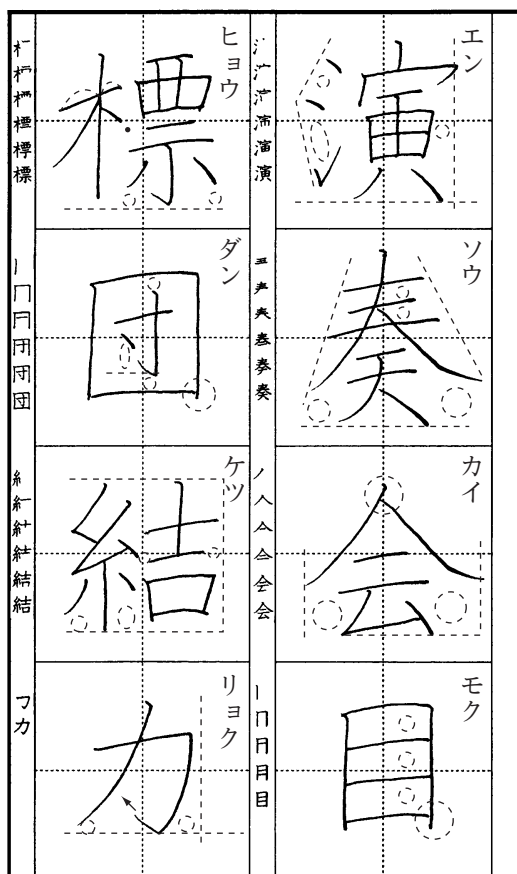
小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

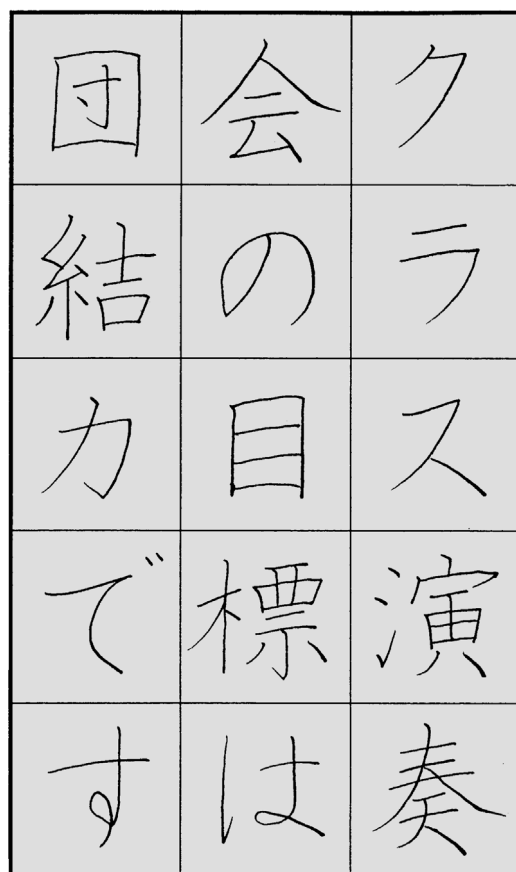
(全員)

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)



解説(よく見て習いましょう)

小六年



(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。



中二・三年 (行書)



中一年 (行書)

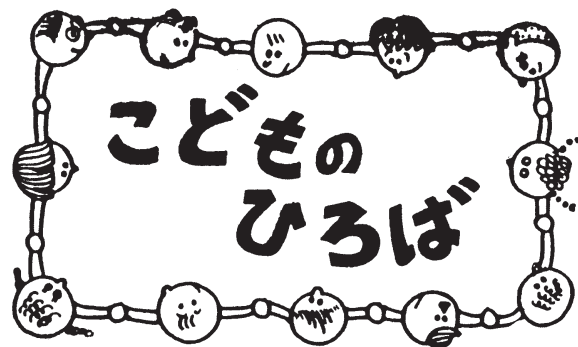
▼小三年以下の課題

あん 安 とう 藤 しゅん 春 すい 翠 書

南	わ	青	す	秋
へ	た	空	が	晴
と	り	を	す	れ
ん	鳥		が	の
で	が		し	
い			い	
く				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

さわ 澤 だ 田 てん 天 ゆう 由 書

世	鉄	自	岡	瀬
界	道	動	山	戸
最	が	車	と	大
長	走	道	香	橋
の	る	と	川	は
橋			を	
			結	
			び	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

中火

さ

る

中る

火り

小二

くり

幼年
く
小二
年

玉
樹
小
華
書

席指

小五

定

ば花

小三

た

指

定

席

花

央

道

道中

小四

央

小三、小五年

水野香竹書

中二

全力疾走

小六・中二・三年

奥村暢之書

団結力

小六

画

疾

走

団

結

映

たて画しっかり

中一
映人画気